

第 7 回市島地域市立小学校統合準備委員会 会議録

◇開 会 令和 4 年 9 月 1 3 日 (火) 午後 7 時 3 0 分

◇閉 会 令和 4 年 9 月 1 3 日 (火) 午後 9 時 0 0 分

◇会 場 ライフピアいちじま研修室

・委員長	川上 泰彦	・副委員長	木寺 章
・委員	青木 修	余田 義信	坂谷 高義 淵上 利美
	荻野 幸広	藤田 泰生	由良 英樹 加藤 宏生
	長井 勇人	松本 和樹	波多野真由奈 宇佐美大介
	坂谷 幸久	若林久美子	余田 亜美 足立 和宏
	吉見 典彦	足立 圭造	内田 順子 中澤 正樹
	山口 滋唯	田野 悟	余田 淳子

〔事務局〕

・教育長	片山 則昭
・教育部長	藤原 泰志
・教育部次長兼学校教育課長	池内 晃二
・教育部次長兼教育総務課長	足立 勲
・健康福祉部子育て支援課長	荒木 和美
・健康福祉部子育て支援課 子育て支援係長	芦田 将司
・教育部教育総務課学校統合準備係長	船越 正一
・教育部教育総務課指導主事	小田 敏治
・教育部教育総務課主事	畑中 直之

次第

(足立教育部次長兼教育総務課長)

1 開会

教育委員会教育総務課の足立です。いつもお世話になっております。定刻になりましたので、ただいまから第7回市島地域市立小学校統合準備委員会を始めさせていただきます。

開会までに確認事項がございますので、よろしくお願いいたします。

最初に、本日の資料は、事前に郵送させていただいております。お忘れの方等ございませんでしょうか。

次に、本日の会議は、公開をしております。また、議事録も作成しておりますので、録音をさせていただいておりますこと、御了承ください。

また、本日傍聴の方もお見えになっております。傍聴規則に基づいて傍聴いただければと思います。資料につきましては、傍聴用の資料を各席に置かせていただいておりますので、御覧いただきながら傍聴ください。

次第

(足立教育部次長兼教育総務課長)

2 あいさつ

それでは、次第に基づいて会を進めさせていただきます。2番のあいさつで、統合準備委員会委員長の川上先生より御挨拶をいただきます。

(川上委員長)

皆さん、こんばんは、6月以来の第7回市島地域市立小学校統合準備委員会となります。市島に向かうまでの道が大分暗くなっており、季節が変わっているなという感じがしているところです。お手元の資料にありますとおり、今回地域部会での検討がかなり進んだところがございます。その点についての共有等、もう少し先を見据えた議論というところが本日進められればというふうに思っております。実りの多い委員会となりますように御協力いただ

ければと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

ありがとうございます。

それともう1点、本日報道の方もお見えです。写真撮影等される場合がありますが、御了承いただきますようお願いいたします。

次第

3 地域部会からの報告及び承認事項

(1) 竹田・前山地域部会

【承認事項】

①統合後の通学支援について

②校名の公募について

【報告事項】

①統合後のアフタースクールの在り方について

(足立教育部次長兼教育総務課長)

それでは、3番の地域部会からの報告及び承認事項というところについては、委員長の進行でよろしくお願いいたします。

(川上委員長)

では、次第に沿って進めてまいりたいと思います。お手元の資料の3番ですね。各地域部会からの報告及び承認事項というふうになっております。御覧のとおり4番で1校統合についてという協議事項でございますので、4番に関係するもの以外についてそれぞれ御報告いただきつつ、竹田・前山の地域部会からについては全体での承認事項でございますので、手続きできればと思っております。

では、竹田・前山地域部会からまず御報告をお願いします。

(竹田・前山地域部会長)

失礼します。竹田・前山地域部会についてただいまから報告させていただきます。

前回の全体会から部会は3回実施しており、議事録は6ページから9ページに記載しております。

まず、①統合後の通学支援についてですが、竹田小学校・前山小学校統合後の通学支援については、通学の時間帯に合わせた路線バスを運行することにより、児童の通学支援を行うことも可能であるということが、公共交通の担当課である、ふるさと定住促進課から説明がありました。バス路線の地図や写真については10ページから12ページ、到着時刻のダイヤにつきましては13ページに記しております。部会では、6ページにある、比較表などを用いて、専用スクールバスにするか、路線バスにするかについて協議が行われました。意見として、「路線バスは社会性が身につくが誰が乗ってくるか分からないので、安全面は心配である。」「提案の路線バスルートでは、市や町の中心部に向かうルートではなく利便性に欠けるため、安全性を重視し、専用スクールバスにしてほしい。」「比較表で見ると明らかに専用スクールバスが選ばれるように思う。」といった意見があり、結果として6ページの議事録の黄色部分に記載しているとおり、専用スクールバスを運行することで決定いたしました。そのほかの意見として、竹田小学校区の児童もバスに乗れるように設置を検討してほしいという意見もありました。具体的にはバスの事項については今後協議を進めていきたいと思っております。

次に②校名の公募についてです。竹田小学校と前山小学校の統合後の校名について、事務局から説明がありました。山南の統合中学校の校名募集の例を参考に校名をどうするかについて検討いたしました。協議の中では、具体的な名前の公募も提案されましたが、地域の幅広い意見をまとめ、皆さんに納得してもらうためには公募がいいのではないかという意見もあり、最終的には公募を実施することで決まりました。

次に公募の内容ですが、16ページに募集要項(案)を記載しております。募集期間は本日の統合準備委員会で承認が得られた後に9月中旬・下旬から11月の中旬頃までを予定しております。募集対象者を市島町在住者と市島地域の小中学校を卒業した方を対象といたします。応募点数については1人1点といたします。応募方法は記載しているとおりです。応募数が一番多かった校名を自動的にそのまま校名にするのではなく、公募の結果を参考に竹田・前山地域部会で校名の決定を行う予定です。

17ページには、応募用紙を記載しております。

次に、統合後のアフタースクールの在り方については、18ページから19ページに資料を添付しております。アフタースクールにつきましては、吉見小学校と鴨庄小学校との同様の1校区1アフタースクールという考え方もある中、統合のアフタースクールの在り方について検討されました。

19ページにもあるように、保護者を対象に意見交換をされており、今後のアンケート等の意見を集約される予定ですので、それらを参考に今後のアフタースクールの在り方について検討を重ねていきます。

ということで、竹田・前山からの部会の報告とします。ありがとうございました。

(川上委員長)

ありがとうございました。次第を御覧いただいておりますが、ただ今、御報告いただいた内容のうち、1つ目と2つ目、通学支援の件と校名を公募しますということについては、全体会でも御承認をいただく案件となっておりますので、後ほど挙手をいただく形になるかと思っております。

その前に、今、御報告いただきました3つについて、何か御質問・御意見等々ありましたら挙手をいただければと思っております。お願いします。

(委員)

今、部会長から説明がありました。そのとおりに思っているのですが、ちょっと一部様子が変わったところがありまして、といいますのは、路線バスのルートが以前は石生や柏原方面には向かわないという話だったのですが、先月ぐらいですかね。そのルートが丹波医療センターまで路線バスが直に向かうというように路線バスのルートの予定が、何か変わったというような情報がありました。そういうことで、ふるさと定住促進課の方には前山地域の保護者を集めて通学方法の説明を行って、そこで質問を受けつけてはどうかと考えています。

保護者の方は安心安全を一番に考えられて専用スクールバスを希望されているのですが、それは路線バスありきじゃなくて、専用スクールバスありきの方向での話合いなので、ふるさと定住促進課のほうからもっと詳しい路線バスに関する説明や意見交換、それを前山小学校の保護者と行ってくれないかというふうに私はお願いをしまして、ふるさと定住促進課の担当者もやりますとって言っていただいておりますが、それがまだできていないようです。

それともう1つお願い、その定住課の方をお願いしているのは、一度路線バスを走らせて、そこで子供や保護者を乗せて様子を見てほしいというふうなことも申し上げているのですが、それもまだ実施できていないような状況ですので、本日の会議では専用スクールバスで決定することを結論を少し待ってもらえないだろうかと思っております。市島地域自治振興会会長の坂谷さんはいかがですか。

(委員)

失礼いたします。先ほどおっしゃったとおり、我々もこのことに、市島町全体としてのいろいろなことを思いながら会議をしたりして、報告受けたりもしていたんですけど、今、おっしゃったとおり、本日決めてしまうのではなく、もう少し前山地域の保護者の皆さんにふるさと定住促進課が丁寧に説

明をしたほうが、それまでに不安に思われることがあったら解消できることもあるだろうということで、市島町の自治振興会長会での話し合いは終わったのですが、その後、ふるさと定住促進課から保護者会の皆さんにもまだ何も連絡がないようです。少し前には前山地域にふれあいバスというのが走っていました。ちょうど今の鴨庄地域のふれあいバスのようなもの、それが前山地域に実はあったんですが、それがいろいろなことがあって、デマンドタクシーが運行を開始したり、民間の会社の意向等もあって、鴨庄地域のふれあいバスは歴史があるから残りましたが、前山地域は廃止することとなりました。私もちょうど市議会議員だったときなので、大分民間事業者と交渉していたんですけども、残念ながら存続することができませんでした。先ほども余田会長が言われたように、病院へ行く交通手段も今後どうなるのだろうと心配していて、市島地域の中で竹田・前山に路線バスが走るかもしれない、その中で、今度どういうところでこれを考えるかというときに、この統合協議の際に何とかそういうことも一緒になって考えられないかいうことを、ふるさと定住促進課も考えてくれているようで、それならばもう少し時間をとって保護者の人にもお話をし、不安なところを解消していったらどうかと思います。まだまだ結論出すまでに協議はしてほしいと私は会長として思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(川上委員長)

ありがとうございました。事務局、このような話はどうですか。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

失礼します。先ほどあった御意見で、今日この全体会の中でまた御協議をいただいて、そのような結論ということになって、部会でもそれで再度検討するという方向が出れば、その方向で御検討いただければどうかというふうに思っております。

こちらのほうとしては以上です。

(川上委員長)

分かりました。路線バスの件について、何かプラスアルファの情報があるような状況ではないということですね。今出た情報が今のところ全部だという理解でよろしいですかね。

(委員)

今日、ふるさと定住促進課の方は出席していないんですね。やっぱり、ふるさと定住促進課の方が説明会や、バスの試乗会もやりますとって言うているので、やはりその後じゃないと、専用バスか路線バスかというような結論はちょっと待つてほしいと思います。

ふるさと定住促進課の方も、今、前山の保護者会がおっしゃっているようなその安全を確保するような運行方法も検討できるんじゃないかなと思います。その辺りの意見交換をしないといけないと私は思っているのです。専用スクールバスを希望する保護者は、やっぱり安心安全ということを言われているので、路線バスの安心安全はどうしたら確保できるのだろうかというような意見交換はまでしないといけないのではないかなというふうに私は思っています。

(川上委員長)

ありがとうございます。事務局、お願いします。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

足立です。今、おっしゃっていただいたようなところは、ふるさと定住促進課の話であって、こちらの状況としては、先般、部会のほうで一旦決定ということで先ほど部会長のほうも報告されたというのは、統合準備委員会の部会としてはそういった結果を踏んでおります。その中で今、各委員がおっしゃった市島地域全体のところでいま一度考え直せないかということでございましたので、ちょうど次の竹田・前山地域の部会が来週に校名の公募の

こと等もあり部会の日が決まっております。本日まだ全員の御意見が聞かれていないですけども、先ほど言われたふるさと定住促進課に再度の説明をということであればその部会の日に改めてそういった機会を設けることは可能かなというふうに思っております。

(川上委員長)

ありがとうございます。もう1つ、9月中に確認をしておかなければと思うのですが、令和6年4月の開校に向けての準備ということになります。公共バスを新しく運行しようとする恐らくそれなり手続き等が発生すると思うのですが、部会というか統合準備委員会全体会で一定の結論を得ているというふうになったときのタイムリミットはいつになるか、専用スクールバスはなくなった、路線バスは通らないという最悪の事態になる可能性もあるので、そうするとタイムリミットをいつにして議論をしていくのかというのが少し気になります。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

失礼します。足立です。これにつきましては、部会のほうで資料も概略をお示しをしていますが、通学支援について遅くともですけど年内にはスクールバスか路線バスかというのを決定いただかないと、令和6年度の開校には間に合わなくなってしまうというところです。

(川上委員長)

分かりました。お願いします。

(委員)

だから急いで前山の保護者の方々の意見を早く聞いてもらわないといけないと思います。やはり、意見交換を実施し、それからバスを一度走らせてみるなど。その辺りの実施を早くしてもらえないかと思えます。だから先月の市島地域の自治振興会長会があったときに、その方向でオーケーをもらっているの、それから今日まで何も音沙汰がなかったということですから、その辺りの動きを早くしてほしいと思えますので、よろしくをお願いします。

(川上委員長)

ありがとうございます。そうするとですね。少し部会での話の進展をやや差戻すような形の意見が今出ているわけですが、部会長さんはどうお考えですか。

(竹田・前山地域部会長)

その路線バスなどについては竹田地域からは別に反対意見はなかったのですが、反対意見としては前山小のPTAが安全性を優先されていまして。私はどちらかという路線バスが走ったほうが良いと思っており、そちらを勧めていたんですが、部会全体の意見ではやっぱり路線バスは危ないのではないかとということで、前山のPTA以外の人では路線バスでも構わないという人もいました。

(川上委員長)

ありがとうございました。そうすると、ちょっと確認になるのですが、一旦は地域部会の結果を御報告をいただいていたのですが、一旦ここでの承認については保留するという形で進めてもよろしいですか。部会として決めたことだからちょっと引けないという話になると、再協議をということになると思いますが、どうでしょうか。

(委員)

私が勘違いをしているのかもしれませんが、通学に路線バスを使うということと、市島町内から柏原に向けて走らせる路線バスというのは分けて考えてもいいかなと思います。予算の問題などもあるだろうし、その辺りのことはわかりませんが。

(川上委員長)

分かりました。すみません。ちょっと整理をさせていただければと思いま

す。すみません。部会長には少し意見するようなことをさせていただいて申し訳ないのですが、今、竹田・前山の地域部会を構成されている委員の皆さん方で、やはりこの場で通学支援は専用スクールバスとすることで承認を得たいとお考えの委員さんいらっしゃれば今、挙手をいただいてもよろしいですか。

(賛成者 挙手)

(委員)

新しい情報を得られたみたいなことは、例えばふるさと定住促進課が路線について変更余地があるとか、それが竹田・前山以外の地域の方にも関係があるというような内容のものであれば、また説明を聞くことは必要だと思います。要するに状況が変わっているんです。ただし、この間の部会ではこの提案された路線では地域の方もあまり利用はない、学校の通学以外にほとんど利用がないのであれば、やはり子供が学校に通うことを最優先にして考えるということで専用スクールバスで部会のほうでは決まっています。ですから、もしそれが再検討の必要があるのであれば、ふるさと定住促進課のほうから新たな提案というか、これまでと違う提案が用意されている中で、部会では全体会に専用スクールバスを提案しているわけですから、竹田・前山地域以外にもそれは関係がある、要するにうちの地域に路線バスが走るということであれば、もう少し考えたほうがいいのか、タイムリミットまで待つのが筋ではないかというふうに思います。

(川上委員長)

ありがとうございました。どうでしょう。事務局は今、出てきた情報というのが、やはり一回引き取って再検討するようなその状況の変化に当たるような話という認識でよろしいですか。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

足立です。そうですね。今言われたとおり、地域部会で二度、7月8日と26日にこの通学支援のことについて御協議をいただきました。その際にはふるさと定住促進課も出席をして説明もさせていただきました。その会議ではなかった情報というのが今、新たな情報として出てきているというのは確かであります。ですので、状況が変わっているという中でいま一度の検討という御意見があるので、その検討をするかしないかについては、今日の全体会の中、あるいは部会の中で決めていただければと思いますが、状況の変化があることは間違いないということで検討に値するかとは思いますが、

以上です。

(川上委員長)

分かりました。ありがとうございます。すみません。そうしましたら、今、スクールバスの案での承認を挙手いただいた委員さんがいらっしゃったのですが、これについてはちょっと一回差し戻しをしたいと思います。要は今日決めなかったことで失うものがあまりないという判断をさせていただきました。この会合が12月ぎりぎりだったらどうしても今日やるべきだというふうに思うのですが、まだやや日程に余裕があるというふうに判断させていただいて、もう一度議論いただければと思いますので、すみません、地域部会のほうで再度の御検討をぜひよろしくお願い致します。その結果としてまた同じ結論が出てきたとすれば、またそれを全体で議論させていただくことになろうとは思いますが、恐らく過去に部会で2回協議したときと違う状況になっているという今御説明でしたので、再度検討をお願いできればと思います。申し訳ありませんが、よろしくお願い致します。

それと、もう1つの承認事項が、校名の公募についてとなっています。これは部会に確認すべきか事務局に確認すべきかわからないのですが、公募をするという点についての確認ということでよろしいですか。詳細な公募方法

については要領等とあるので、確か山南でやったときは2校統合だったので既に校章・校歌等検討するための部会が別にできていて、その中で案の検討をしてという手続だったように覚えておりますので、そう考えると今回そういう委員構成にはまだしていない状態ですから、少し検討方法も変わってくるのかなというふうに思うのですね。部会で決めたことも全体で承認するという形になるのか。部会で幾つかの案を持ってきて全体会で決めていくという形になるのか。詳細な決定方法はまだ幾つか方向があるかなというふうに思うのですが、どうでしょうか。お願いします。

(船越教育総務課学校統合準備係長)

学校統合準備係長の船越です。前回の竹田・前山の部会の中で、公募をして学校名を決定していくということが確認されておりますので、本日はその公募をするということを承認していただけたらありがたいです。

(川上委員長)

分かりました。

(船越教育総務課学校統合準備係長)

その後、16ページまだ募集期間が9月の〇～11月〇だけなのですけれども、本日決定いただいたら速やかにこちらで事務を進めさせていただいて、募集をかけたいなというふうには考えております。

(川上委員長)

決定までのプロセスや選考要領についても今回その公募するという御承認をいただいて、それを受けて作成するということですか。

(船越教育総務課学校統合準備係長)

選考要領につきましては、前回の部会ではそこまで詰めることができなかったので、この募集をしながら次の部会等で詰めていきたいなというふうには考えております。

(川上委員長)

今、お話がありましたとおり、公募をするかどうかということについて御承認をいただきたい。それから出てきた案から校名をどう決めていくかという選考要領については、この後改めて検討をするということの御説明でした。これについて何か御意見、御質問、確認されたいことありましたら挙手いただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

では、承認事項ですので挙手をいただければと思います。

竹田・前山地域部会から御提案がありました。新校名についての公募を行うということについて、御承認いただける委員の皆様、挙手をいただければと思います。よろしく申し上げます。承認いただけるなら挙手をお願いします。よろしいですか。

(賛成者 挙手)

(川上委員長)

ありがとうございます。公募を行うということで御承認をいただきました。ありがとうございます。

次に、恐らく次回の統合準備委員会をする頃には、公募はもう始まっているはずです。まだ締切り前ぐらいな感じですかね。なので、出てきた案はこうでしたという話というよりは、今公募が進行中で選考要領はこうなっていますというような話が次回の準備委員会の中で出てくるかなというようなスケジュールですね。よろしくお願いたします。

ということで、アフタースクールの在り方については検討状況の御報告ということですので、特に承認を要することではないということですので、竹田・前山の地域部会からの御報告になるかと思っております。その点の承認事項については以上のとおりで進めてまいりたいと思いますが、この時点で何か確認をしておきたいところ、次に向けての御意見等々ありましたら、お願いい

たします。

(委員)

ちょっとお聞きしたいのですが、校名を募集されるということですが、これは応募数が多いから決まるとか、少なかったとしても選ばれることがあるのか、そのような基準があるのかどうかということと、校名が決まれば校歌が必要になってくるのではないかと思うのですが、その辺りはどうなっているのでしょうか。

(川上委員長)

事務局、よろしいですか。お願いします。

(船越教育総務課学校統合準備係長)

失礼します。学校統合準備係長の船越です。

先ほどの応募数が多い作品が選考作品になるのかということですが、16ページの募集要項のその他のところで、「必ずしも応募数の多い候補校名を校名案として決定するものではありません。」というただし書きを記載していますので、先ほど申し上げましたが、どのように決定していくかという中で、部会員さんで御協議いただきながらそのあたりは決めていきたいと考えております。

それと、校歌ですね。校名が決まりましたら当然校歌が変わってくるわけですが、それについても校名が決定した後に今年度中には募集や決定をしていきたいという、スケジュール感で進めています。

(川上委員長)

ありがとうございました。関連して、もしくは関連しなくてもいいのですが、いかがでしょうか。何か御確認や御意見等々ありましたらお願いします。

(委員)

スクールバスの件が差戻しというような形になることは理解しました。ふるさと定住促進課にも説明に来ていただいてこれは決定した事項ですので、もう一度お伝え願いたいことが2点ございます。

1点目が、前山地域の方も竹田方面へ向かうバスへの乗車はあまり希望がないということを聞いておられましたので、例えばそちら向けにはスクールバスを走らせ、市島方面、いわゆる丹波医療センターに向けて路線バスを走らすということはできるのか。

2点目が、余田委員さんからは前山地域の保護者に特に説明をというような話を言われましたが、学校を預かる身としては路線バスが路上に止まって子供たちを乗車させるということにも大変危惧しております。路線バスがなかなか敷地に乗入れができないということは十分知っておりますが、例えば学校の駐車場は幸い広いですので、そこに乗入れをする、いわゆるUターンをする場合も路線バスにはあると思うので、そのようなタイミングで学校敷地内への乗り入れをすることはできないでしょうか。後日の部会当日にまた持ち帰ってというよりは、もう事前にそういうことが分かれば少しでも安全安心という部分が担保できるのではないかなと思います。いろいろな面で危惧はあると思います。その中でも丁寧に答えていただけたらありがたいと思います。

以上です。

(川上委員長)

ありがとうございました。このあたり、事務局どうでしょうか。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

ありがとうございます。足立です。

今、校長先生が言われたところについては、おっしゃることも十分分かりますので、ふるさと定住促進課のほうに今の2点、1点はそのスクールバスと路線バスが併存が可能かどうかということと、路線バスとなった場合に学校内に乗入れが可能なのかという、その2点だったと思いますので、それは

事前にこちらのほうから伝えておきます。

(川上委員長)

ありがとうございます。次回の準備委員会のときに少し情報が整理されているという感じはするのですが、竹田・前山地域部会のほうでそこは情報共有して議論を進めていただいて、遅くとも年内というお話で言うと、次回の統合準備委員会スケジュール次第にはなるのですが、割と短めで年内に1、2回全体会をやると想定しても次かその次ぐらいにはここで御承認をいただかないと、スケジュール的に厳しくなってくるということになりますし、年内あと1回だけということになると、次回が承認の機会になっていないと、いろいろ厳しいことになってくるということになるかと思っておりますので、その辺りのスケジュール感を想定しながら進めていただければと思います。よろしくお願ひします。

あとよろしいでしょうか。ありがとうございます。

(2) 吉見・鴨庄・三輪地域部会

(川上委員長)

それでは、続いて、吉見・鴨庄・三輪の地域部会から御報告をいただければと思います。よろしくお願ひします。

(吉見・鴨庄・三輪地域部会副部会長)

失礼します。吉見・鴨庄・三輪地域部会から報告いたします。

地域部会は8月26日に実施しております。議事録は20ページから22ページに記載しております。

内容としては、1校統合と三輪小学校の統合の時期について協議を行いました。またその詳しい内容につきましては、この後の1校統合の協議で報告させていただきますので、これで報告とします。

(川上委員長)

分かりました。ありがとうございます。次の4番、1校統合についての協議事項に関わる中身を主に御議論いただいたということですので、次の段階でまたお話をいただければと思います。

特に、先ほど竹田・前山の地域部会の関連で御発言いただいて、やや意見は出尽くしていたかなというふうに思いますので、4の1校統合のほうに議題を進めていきたいかなというふうに思うのですが、改めてこれまでの段階の御議論を通して御質問、御意見等、御発言いただける方いらっしゃいましたら挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか。

次第

4 1校統合について【協議事項】

・各地域部会からの報告

(川上委員長)

では、4番の1校統合についてとなっている協議事項について進めていきたいと思ひます。

まず、各部会にどういった形でお話が進んでいるか。事前に会議記録御覧になった委員さんお分かりかと思ひますが、先ほど議論いろいろありましたが、竹田・前山の地域部会のほうでもこの件、御議論いただいておりますので、まず各部会から1校統合に絡めての御議論の進み具合について御報告をお願いできればと思ひます。よろしくお願ひします。

(竹田・前山地域部会長)

失礼いたします。竹田・前山地域部会、1校統合についての協議事項の結果について報告いたします。

竹田・前山地域部会では、第6回地域部会で1校統合に関する協議を行いました。1ページの議事録に意見等は書いています。議事録にあるように、「いつかは1校になるということは感じているが、今はそれを論議すると校

舎改修が先延ばしになる可能性があるなど、段階的統合の足かせになっているように感じている。実際のところ、1校統合が早い段階で決まるとも思えないので、現段階では凍結という形がいいと思う。」「地域の感覚としては、1校統合を目指すより、『複式を解消するために統合をする』という思いが強いと感じている。」「今進めている竹田小学校と前山小学校の統合が終わり、落ち着いてから1校統合の話をするべきだと思う。」というような意見が出たことから、竹田・前山地域部会としては、「1校統合の協議については一旦凍結し、段階的に統合を実施した後に状況によって協議を再開する」方向で決定いたしました。ということで、報告を終わります。

(川上委員長)

ありがとうございました。まず、議論の状況を整理したいというふうに思いますので、続いて、吉見・鴨庄・三輪の地域部会のほうでの議論について御報告いただければと思います。

(吉見・鴨庄・三輪地域部会副会長)

失礼します。吉見・鴨庄・三輪地域部会から、1校統合協議結果について報告いたします。協議録は20ページから22ページに記載しております。また、1校統合は三輪小学校の統合の時期にも影響するため、合わせて協議を実施しており、23ページの資料にある3校の児童数とクラス数の推移予測を参考に検討を行いました。また、三輪小学校の統合の時期については、大規模な増築を行わない場合は、教室数の関係上、令和12年度以降の方向になることが予想されます。

部会ではまず、美和地域の委員のから、美和地域が実施した個別協議の結果報告がありました。美和地域のPTA役員さんやこども園の保護者、地域の方が集まった意見交換の中では、1校に統合してほしいという意見が多かったのですが、実際に実現するのは難しいのではないかと感じておられ、小学校やこども園の保護者からは「できるだけ早く」という意見が寄せられていることも考慮して、結果として、令和12年度を待たずにできるだけ早く統合を実施してほしいという意見が報告されました。また、美和地域から令和12年度という、いつ統合できるかわからない不確定な表現について、不安を感じておられる保護者がおられるということでした。このことについては、他の校区の委員からも、費用で考えるのではなく、子供たちの教育を考えて三輪小学校の統合を早くかなえてあげてほしいという意見も寄せられました。

また、学校現場からは、吉見小学校の教室の大きさと3校の児童が全て入れるのか。また、不登校や生活指導事案の対応などで教室は必要になってくるため、3校が統合しても学校運営に支障がないかもしっかり検討していかなければいけないという意見も出されました。

1校統合については、竹田・前山部会では一旦1校統合を凍結という結論を出されましたが、将来市島地域の環境をよくするという視点で考える必要があり、1校にするという方向でいくのが必要だという意見もある半面、学校統合を短期間で繰り返すことは子供たちや地域の人たちにとって負担が大きい。また、幼小連携などこども園単位の教育環境を大切にするのであれば、施設整備を行い、3校で統合して1校にするのはある程度先という形でもよいのではないかと意見があり、また、将来的に1校になるのは賛成だが、今後も今のような形で統合の場所や時期などの具体的な事項を明確に決定するようなのは現実的ではないという意見もありました。

ただし、1校統合については最終的には、この全体会での話合いで決めていかないといけない事項であり、またそれが決まらなると三輪小学校の統合の時期に関して検討するのも難しいという意見もあり、部会での結論は出さずに、本日の全体会で協議を行うとなりました。本日の1校統合の協議の結果を踏まえて、また三輪小学校の統合の時期も検討していく予定としており

ます。

以上、報告を終わります。

(川上委員長)

ありがとうございました。今の各部会のほうから、1校統合の今後の見通しについての意見交換、結果について御報告をいただきました。それに向けてといたしますか、事務局としてこの件はどういうふうに整理しているかについて引き続いて御報告をいただければと思います。お願いします。

(畑中教育総務課主事)

失礼します。教育総務課の畑中です。

先ほど、地域部会より、地域部会の協議結果を御報告いただき、この後に1校統合について協議をいただきますが、ここで事務局より、1校統合の参考となる資料について、本日添付しているものを説明させていただきます。

資料は24ページを御覧ください。

御覧の資料は、前回の全体会でも説明させていただきましたが、再度確認として検討しております。なお、一番上の表題ですが、以前は5校が1校というような表記をしておりましたが、現在はもう3校から1校ではないかといった意見や、5校から1校がなくなったということは、段階的統合をなしとするのかといった意見もございましたので、本日から5校から1校という表現ではなく、1校統合というような表記に変えさせていただいております。

説明に戻ります。まず、一番上の形態につきましては、これからの教育を考える会の提言を踏まえると、小中一貫教育等を意識した内容で提言が行われておりましたので、その小中一貫教育を意識した形態が考えられます。

左下の場所につきましては、新たな場所を設定する場合と既存の校舎を活用する場合とが考えられます。新たな場所を設定する場合の対応としましては、建設用地の確保が必要になり、建設費用が高額になることが考えられます。既存校舎を活用する場合は、現在の5校区の児童全員が入ることができる校舎がないため、増築または全児童が入れる時期まで待つ必要があります。

右下の時期につきましては、現在進めている統合のそれぞれの審議会の統合の進捗も考えていく必要があります。もし具体的に何年に統合するという時期の設定が難しい場合は、これまでの例ではありますが、段階的統合後にさらに複式学級が発生した場合に1校統合を検討するというような方向も考えられます。

次に、25ページを御覧ください。

1校統合の方向性についてとしまして、これまでの協議で委員の皆様からいただきました意見を元に、今後考えられる統合の形態をまとめてみました。表の左側に方向性を、右側に意見や今後の対応などについて記載しております。

一番上から、方向性としては「実現を目指す」これは実際にどこに校舎を建てるのか。何年の開校を目指すのかといった具体的な事項について決定を下すことを意味します。委員の皆様からいただいた意見としましては、「もともとの提言に向かって1校統合を目指すべき。」「美和地域の意見では1校にしてほしいという意見が多かった。」「将来の市島地域の教育環境をよくするという視点で考えると、最終的には1校にするという方向に持っていく必要がある。」という意見をいただいております。

次に、下の「一時的に休止」としてありますが、これは将来的に全く統合協議を実施しないというわけではありませんが、一定の条件になるまでは1校統合の協議は休止をするという意味です。意見としましては、「個別の統合が忙しくなるため、落ち着くまでは1校協議は難しく、負担に感じている。」「1校統合の協議を進めることで校舎改修が先延ばしになる可能性もある。」「ある程度人数が減って複式学級が予想される時点になってから1校統合を考えるべき。」「学校統合を短期間で繰り返すのは子供や地域の人たちにと

って負担が大きい。」「最終的に1校になるのは賛成だが、今の段階で統合の時期や場所などの具体的な事項を決めるのは現実的ではない。」というような意見をいただきました。また、この場合、基本的に現在の地域部会での協議を中心に行っていくこととなりますが、将来的に協議を再開する条件などを定めることも検討していただく必要があるかと思えます。また、例としては、部会の中の意見でもいただきました、将来的に複式学級になる、または見込まれる場合に協議を再開するという条件も考えられると思えます。

最後に、一番下の「完全に休止」としておりますが、この統合準備委員会では1校統合は基本的に行わないということを意味しております。ただし、27ページに要旨を記載しておりますが、市では学校適正規模・適正配置方針を定めており、27ページでいうと一番下の(3)学校統合のところに記載しておりますように、「小学校は複式学級規模となる場合または複式学級規模となることが見込まれる場合に地域合意の下、その学校のある地域(旧町域)で統合協議を行う。ただし、完全複式(3学級)規模となる場合は、地域合意の如何を問わず速やかに統合協議に入る。」という方針も設けておりますので、また今後の状況によっては再度検討をする場合もあるということは御留意いただけたらと思えます。

最後に、26ページには、市島地域の児童数の推移予測を地域別にまとめておりますので、この後の協議に参考にしていただけたらと思えます。

以上で説明を終わります。

(川上委員長)

ありがとうございました。今、各部会からの御報告、それから事務局としてのそれぞれの条件の整理についてそれぞれ説明いただきました。この後少し時間をとって1校統合についての御意見、お考え等々聞かせていただければと思えますので、御意見ある方はぜひ挙手をいただければと思えます。

そうしましたら、すみません、私のほうから、少し確認をしたいと思うのですが、吉見・鴨庄・三輪地域部会でも御議論をされている中で、吉見・鴨庄・三輪とそれから竹田・前山で2校の状態にするか、1校統合をするかというあたりで、その意見にばらつきがあるというような理解でよろしいのでしょうか。それとも、今は三輪小学校は統合はせずに3校の状態でいくというような御意見か、2つに分かれて統合していくという意見で固まっている感じなのでしょうか。

(吉見・鴨庄・三輪地域部会副部長)

失礼します。まず、取りあえず今の三輪小学校が残されている状態を美和地域のほうからそれを早く解消する方法をまず考えてほしいということでした。その中で、1校統合が時間がかかるのであれば2校の統合のほうが早いのではないかとこのところで前回の部会の協議は終わっています。

(川上委員長)

分かりました。ありがとうございます。すみません。すごく乱暴に話を振ってしまいましたが、関連して御意見ありましたらぜひ挙手をいただければと思えますが、いかがでしょうか。

お願いします。

(吉見・鴨庄・三輪地域部会長)

今、副部会長のほうから説明があつたのですが、三輪小学校としましては、今までの文言の中で令和12年度以降という表現がありますが、その点について保護者、父兄の方が大変不安に思っている、12年度以降ということは統合が13年、14年、15年と遅れることもあり、いつまで続くか分からないという状況ですので、12年度までに統合する方向で考えてほしいという意見が多かったです。ただ、そうなってくると吉見小学校の教室が足りないという部分は、やはりそこは子供のことを優先的に考えていただいて、何とか増築して子供が入れるような環境にしてほしいというような意見

が多かったということでございます。

(川上委員長)

ありがとうございます。基本となってくるのが、今、お話いただいたところかなというふうに思います。事務局に少し補足説明をいただければと思うのですが通過点としての2拠点という話になるのかなというふうに思うのですが、このあたりのその1校統合、2校統合の条件比較の話、事務局のほうから少し情報提供いただけますか。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

そうですね。1校統合、2校統合の比較をしたものを説明させていただいてもよろしいですか。

(川上委員長)

お願いします。今、資料を1枚、配付いただいております。

(畑中教育部教育総務課主事)

失礼します。教育総務課の畑中です。資料はお手元に皆さん行き渡りましたでしょうかでは、資料のほう説明をいたします。

追加でお配りした資料について説明をいたします。先ほども中で美和地域の皆さんの御要望として統合をしたいという御意向がありましたので、1校統合が2校統合かのおおむね絞られこれが選択肢として挙げられたと思いますが、一度2つの統合について条件整理や比較について行いたいと思います。

資料の上から、まず場所についてですが、まず1校統合の場合はまだ決まっておられませんので今後の協議によります。2校統合では、竹田小学校と前山小学校の統合場所は竹田小学校であることは決まっております、吉見小と鴨庄・三輪小学校の統合では、現在吉見小学校の校舎を使用することを前提に現在協議を行っていただいているところです。

次に、下の時期につきましては、1校統合につきましては過去に説明をしたとおり、最短でも形態・場所・時期などの統合に関する具体的な事項が決定してから4、5年後を見込む必要があります。2校統合の場合は、竹田小学校と前山小学校の統合では令和6年度が決定しており、吉見小学校と鴨庄小学校・三輪小学校の統合の時期は現在も検討いただいております。なお、御存じのとおり、吉見小学校と鴨庄小学校の統合につきましては、来年令和5年の統合が決まっております。

次に、施設整備に関しましては、1校統合では、建設用地の確保や新校舎の建築が必要になります。このほかにも、既存の校舎を活用する方法がありますが、5校区全ての児童が入る校舎はありませんので、相当先の統合となることが予想されます。また、1校統合で将来新校舎を新設する場合は、その段階である2校統合の時点で、施設整備と書いておりますが、正確に表現すると大規模な施設整備や、増築でありますとか、そういったことは将来1校になることを見込んでいる場合には、施設整備は少し難しくなるということが条件としてあります。次に2校統合の場合は、竹田小学校と前山小学校の統合では、統合後に使用する竹田小学校の古くなっている部分などの改修など教育環境の向上を目的とする改修と、統合を機に校名・校歌・校章が変わることが予想されておりますので、それに対応する改修も必要となります。吉見小学校・鴨庄小学校・三輪小学校の統合では、先ほどもありましたように早期の統合を行うには、現在普通教室が足りていませんので、統合を行う場合は増改築等の改修が必要となります。

次に、一番下の特色ある教育としましては、1校統合の場合には、小中一貫教育が考えられ、施設一体型や分離型、義務教育学校などの形態があります。また、この統合準備委員会で既に実施されたこれからの教育を考える会の提言では、同一敷地内での施設一体型小中一貫教育を目指すことが望まれると明記されております。右の2校統合では、幼小連携教育が考えられます。

これは昨年度に開催した校区別のヒアリングでも、この幼小連携を望む声が多く寄せられました。また、実際に地域部会におきましても、認定こども園の範囲を対象に現在組織をしております。ただし、1校にしないと小中一貫教育ができない、反対に2校にしないと幼小連携教育ができないというわけではなく、連続した教育を行うことが非常に重要と考えており、あくまで実施がしやすいというような御理解でいただけたらと思っております。

以上が、現在考えられる1校統合と2校統合のそれぞれの比較ということとさせていただきます。失礼します。

(川上委員長)

ありがとうございました。実際この後進めていくに際して、こういう条件が出てきますという整理いただいた資料になるかなと思います。資料に関して御確認いただきたいことありましたら、それから今、出てきた条件等々含めて、御意見がございましたら挙手いただければと思いますが、いかがでしょうか。資料については大丈夫でしょうか。何か御確認をしておきたいことありましたらぜひ挙手いただければと思っておりますが。事務局は特に補足はないですか。

ここに大体検討すべき点が並んでいるかなという認識でいるのですが、恐らくポイントになってくるであろうところが、下から2段目の施設整備のところになるかなと思います。先ほど申し上げましたが、1校統合というのを目指すと2校統合時点での施設整備というのが少し難しくなるのではないかということですね。逆に少し意地の悪い質問になるかもしれないですけど、事務局に、2校統合でいくと施設の改修は確約していただけるものなのかという点について、2校統合だけど施設整備は何もしませんとなると、本当に先ほどの吉見・鴨庄・三輪の統合の話が令和12年度以降を待つということになりかねないということになるのですが、この辺いかがなんでしょうか。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

失礼します。足立です。今、委員長が確約というような言葉も言われました。現時点で確約といったことはできないのですが、今言われた仮に2校統合を当面存続させるということであれば、今美和地域が求められている令和12年度よりも早く統合して欲しいというところでは、それは施設整備を伴うことになります。あるいは竹田・前山についても竹田小学校で統合ということについての、いずれ来る大規模改修、長寿命化改修というところの施設改修が必要になってきますので、その辺りのことについて今日、お約束というのはなかなかできないのですが、2校を存続させていくということが統合の方向でいくとなれば、それはそういった施設の今後の在り方というのを市全体で協議をしていって、また然るべきときに御報告をさせていただくということになる思っています。

(川上委員長)

すみません。もう少し突っ込んだお話になり、すみません。何かというと、もし、こちらの統合の場合はこういう整備が考えられます。もしこちらの場合は整備ができますというお話を出していただくことはできるのでしょうか。言い方を変えると、要するに統合準備委員会で1校統合、または当面の間は2校統合ですという結論を得てからでないで統合の条件の話、施設整備の話が出てこないのか。2校統合という結論を得たときにはこういう施設整備ができそうですという見込みの話がいただけるのかという話になるのか。結論をとった上でないで施設整備の話が出てこないのか。こういう結論を踏めばこういう施設整備が見込めますよというお話はいただけるのかというあたりで、立場上、次の進め方が浮かんでしまうのでご説明頂けたらと思います。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

失礼します。仮にという話かと思いますが、当然決定してからというよりもこういった意見が今出ている中で2校統合を最終形態にされることを前提にした市内部での協議をしてこの統合準備委員会で報告をするということは可能というふうに思っております。

(川上委員長)

分かりました。ありがとうございます。すみません。皆さんに御意見を諮るべきだと思いますが、私個人的には2校統合の場合どうなるのかというお話はぜひ次回までにお伺いしたいなと思うところではあるのですが、この辺についてやっぱりそういう話は要らないという御意見がありましたら、それはそれでぜひお聞かせいただきたいなというふうに思いますし、そのほかにこういう話を聞きたいというようなことがありましたら御意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

そうしましたら、特段挙手がないようですので、2校統合の際に、2校統合となったときにどういう施設整備が見込まれるかという件について、特に吉見・鴨庄・三輪地域部会の方になると思うのですが、次回全体会で説明をいただくという形のほうがいいのか。間に合うようならその前に地域部会されるようであれば、地域部会の場で提示があったほうが、恐らく統合準備委員会に向けての議論として進めやすい部分も出てくるかなというふうに思うのですが、その辺は特に吉見・鴨庄・三輪の地域部会の皆さん、御意見いかがでしょうか。事務局、どれぐらいそれは可能でしょうか。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

どのレベルでの意思決定をしていくかというのももちろん関係があるとは思いますが、大きな事項になると思いますので、少し時間はいただきたいと思えます。ちょうど今、9月の議会の最中になっておりますので、9月いっぱい、もう少しお時間はいただく中で、市の内部では決定していきたいというふうに思えます。

(川上委員長)

ありがとうございます。恐らく改修の話になりますので、直接その統合の時期としてどうなるかということについては影響のない竹田・前山の地域部会にとっても大事な話になってくるかなという気がしますので、ぜひ2校統合としたときにどういうのが見込めそうかという点について情報整理できました時点で、各部会への情報提供を進めていただきたいと思えます。

いかがでしょうか。何か御意見やそれからこういう情報がほしいというお話があればぜひ発言いただきたいと思うのですね。多分今回に出てきたものでこれはどうなのだという話は多分次出てきやすいと思うのですが、この段階で今後の統合についていかがでしょうか。

(委員)

前山小学校の吉見です。学校の代表というよりは委員の1人としての意見ですが、この1校にするか、あるいは2校のままかという議論の中で、適正規模・適正配置の方針を見ているのですが、以前に1校にするというような提言が出されたときには、規模が違っていたと思うのです。今回、和田中学校は1クラスですので、方針には関係してくる。ですから、その方針に基づいて統合となれば市としても予算はつけざるを得なくてはならないというか、根拠があると思えます。例えばここで1校にしましょうということになったとしても、適正規模の条件には合っおらず、統合のその根拠にならない。皆さんの場合も複式は認めない状況であるので、その統合というのをこの場で決定されたことがすぐ予算に反映する可能性があるのかないのかというところがわからないと、幾ら決めても実現しない。この議論がいつまでも続くと思われるのです。ここに令和3年から12年までの10年間の方針というふうにかかれてるので、これを堅く考えると12年まではその統合はないということになるのですが、いやいや、地域のほうがそういう要望

もこういう形で挙げるのならば、先ほど言われたように既にあるのですということがはっきり言っていただけるなら、まだまだ議論の余地もあるし、もうそれは1校統合の場合も同じことだと思うので、先ほど委員長さん言われたその予算の措置があるのかなのかということも大事なことだなというふうに考えております。

(川上委員長)

ありがとうございます。特に適正規模・適正配置方針との関係ですね。次の情報提供の際に説明いただけたらと思います。

そのほかいかがでしょうか。特段ございませんでしょうか。そうしますと、引き続き各部会を中心に引き続きの御議論をいただいて、次回統合準備委員会のほうで共有を進めていければというふうに思うところです。ありがとうございました。

次第

5 その他

(川上委員長)

では、5のその他、事務局、何か用意していますでしょうか。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

特にありません

(川上委員長)

委員の皆さん方から御意見ございましたら挙手いただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、進行を事務局のほうにお戻ししたいと思います。御協力ありがとうございました。

次第

6 次回委員会の日程について

(足立教育部次長兼教育総務課長)

ありがとうございました。それでは、次第の5番までが終わったということで6番、次回委員会の日程についてということですが、先ほども御協議いただいた中で、竹田・前山地域部会のほうでは通学支援の再度の検討、それから校名について公募までは決まったのですが、選考要領等について次回御協議いただくこととなります。そういったことを受けて、全体会での確認というのを必要かと思しますので、毎月、続けての開催になりますが、10月18日、もしくは25日の火曜日、いずれも時間は7時30分からこの会場で、どちらかで全体会を開催したいというふうに事務局としては考えております。委員様の御都合、いかがでしょうか。もしどちらでも御都合がよいとなれば、本日委員長から条件の確認といえますか、宿題もいただいておりますので、25日がありがたいと思っております。よろしいでしょうか。

(川上委員長)

すみません。日程案についてのお話ではないのですが、10月25日、10月中にできるということはすみません。その次も年内にもう一回ぐらいできそうという見込みでよろしいですかね。先ほどのバスの件が年内ということでしたので、10月25日竹田・前山のほうでの結論から全体の承認へというふうにするのか、次を見込んでの年内というふうにするのか。もう少し見込みがあったほうがいいかなと思ったのですが。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

恐らくですけど、今日のその通学支援については試乗もというような話、あるいは保護者の方の御意見いろいろお聞かせいただくということになると、この10月25日ではちょっと難しいかなとは思っています。ですが、公募に係る選考要領とか、そういったところも進めていかないといけないですし、今の1校統合の件、引き続きの御協議も必要かと思しますので、この

10月とできれば年内にもう一度というようなスケジュールかなというふうに思っております。

(川上委員長)

ありがとうございました。

(足立教育部次長兼教育総務課長)

それでは、特にないのでしたら、次回を10月25日、火曜日の夜7時30分からこの会場でお世話になりたいというふうに思っております。

次第

6 閉会

(足立教育部次長兼教育総務課長)

それでは、最後7番、閉会ということで、木寺副委員長、よろしくお願ひします。

(副委員長)

それでは、長時間にわたりまして、慎重に審議いただきましてありがとうございました。各部会でそれぞれ熱心に協議いただいております。特に美和の統合時期の問題、あるいは竹田・前山の路線バスの件、いろいろありますけど、今後も引き続きまして審議いただきますようよろしくお願ひします。本日は、閉会いたします。ありがとうございました。